

YAMATO Nature Circle



2026年1月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.84

——絵と文 群馬直美——

朽ちゆくものの命の力《シブガキ》

9月の終わりにビオトープ園で、紅葉した柿の葉と、シブガキの青い実と、ユズリハの落ち葉を採集した。

すぐに色を変えてしまう葉っぱは、描く前に写真を撮って資料を作る。青い実は、熟すのを待つ。

10月にユズリハの落ち葉を描き、11月は柿の葉。

シャープペンシルで下描きをして、ビオトープ園で出会ったときの美しい表情を、

資料写真と実物を見ながら描く。箱に保管していた実際の葉を見てみると、

カラカラに干からび小さくなって色褪せていた。

でも、これはこれで美しい——。私の中で何かが動きはじめた。

ふと、アトリエの作業机に置いた柿の実に目をやると、

青かった実が柿色になっている。

近づくと皮がちょっとぶよぶよして、虫も飛んでいる……。

ああ、みんな生きている！

なんだか凄い生命エネルギーを感じ取った私は、

厚手の紙にライトレッドとアイボリーブラックで下地塗りをし、

白で朽ちゆく柿の実を描きはじめた。

描きこむ前の段階、私自身の命のほとばしりも残る絵を、

今回の表紙画にしました。



《表紙の絵》朽ちゆく柿の実

「ブヨブヨした皮に浮かび上がる

猪八戒(ちょはっかい)の顔」

・ヤマトビオトープ園にて 2025.9.29採集

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目640g)
/テンペラ・油絵の具

・size:380mm×270mm

©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。

<https://www.wood.jp/konoha/>